

日中比較対照研究：
中国語現代文の人数表現 — 四川大地震の報道を例
に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 室井, 努 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/17459

日中比較対照研究：中国語現代文の人数表現 — 四川大地震の報道を例に

室 井 努

キーワード：量詞、助数詞、人、名、人数表現

要旨：日本語では普通に助数詞として認められる〈数＋「人」〉という文字連続の人数表現であるが、古典中国語においては量詞として認めるか否か議論が分かれるところである。本稿では現代中国語について、四川大地震の報道文における人数表現を例として精査するに、〈数＋「人」〉による名詞句前置あるいは単独の表現と、量詞「名」による名詞句後置の表現とが相補的に現れること、〈数＋「人」〉には「的」を用いた名詞句後置形が存在することなどを指摘する。

0 はじめに

日本語では助数詞として疑いもなく認められる〈数＋「人」〉という文字連続の人数表現について、中国語古典文においては、研究者により「人」を量詞とするか、それともこれを量詞としないで「个」などの量詞が省略された表現みから意見が分かれており（拙稿（1997・2006）を参照（注1））、また平安時代の日本漢文訓読においてもその両者の立場の違いによる訓読の見られることは既に指摘したところである（拙稿（1997・78頁））。

ところで、現代中国語の諸学習書においては、人数を表す量詞は「个（個・箇）」とあり、郭（1987）も人数には「个 口 家 輩 ……」が量詞として搭配されるものとしている（124頁（注2））。しかし、現代中国語においても、〈数＋「人」〉の文字連続で人数を表すことがしばしば存在することは、現代中国語に携わる方であれば常識であろうかと思われる。

本稿は、2008年5月12日に起きた四川大地震の報道に多く現れた人数表現を取り上げ、〈数＋「人」〉の表現とその他の量詞を用いた表現との違いを、古代・現代日本語でのそれぞれの表現の記述を交え史的に比較しながら、明らかにするものである。

なお、本稿における現代中国語の用例は二つを除きすべてインターネットの新華網（<http://www.xinhuanet.com/>）と新浪網（<http://news.sina.com.cn/>）の二つから随時抜き出し引用した。

1 <数+「人」>の人数表現の使用

①は地震発生7時間後の速報記事である。

① 四川汶川地震造成伤亡数千人 新华网成都5月12日电 据记者从抗震救灾指挥部了解到的最新情况,在5月12日四川汶川地震中,造成四川省人员伤亡已达数千人,陕西省死亡57人,甘肃省死亡26人,重庆市死亡50人,云南省死亡1人,具体数字仍在统计中。(新華網12日21:44:36)

② 快讯:济南军区先遣人员160人从济南乘专机赴灾区 新华网快讯:济南军区援助汶川地震灾区先遣人员160人13日8时从济南乘专机奔赴灾区,包括济南军区和所属两个集团军的先遣指挥组25人以及5支医疗队135人。

(新華網13日08:32:44)

このように、<数+「人」>の表現は、単独で用いられ、①②のように名詞句を前置させて用いられ、このような表現は、地震発生直後から夥しい用例を得ることができる。なお、<数+「人」>の表現には名詞句後置の形はない、特に現代中国語ではもっとも基本的な形とされる数詞+量詞+名詞句の形がない(注3)。それゆえ、「人」が量詞であるか否か、議論が分かれていることについては、拙稿(1997)で述べたとおりである。

なお、このようなく数+「人」>の用法は台湾においてもみられる。

③【中央社北京十三日電】 中國大陸四川省汶川縣十二日發生的強烈地震,到十三日上午七時,已知造成至少九千二百一十九人死亡,多達五十多萬間房屋倒塌。新華網快訊報導,這是中國民政部最新的統計。截至十三日七時,四川汶川縣地震造成四川、甘肅、陝西、重慶、雲南、山西、貴州、湖北八個省市共九千二百一十九人死亡。(聯合新聞網13日午前10時)

なお、本稿においては、①②の「死亡50人」「先遣指揮組25人以及5支医疗队135人」のように、数える対象が<数+「人」>や<数+量詞>の前にあるものを機械的にすべて名詞句前置とした。数える対象とこれらの関係は、修飾被修飾の関係ではなく、主述の関係、または動詞とその目的語の関係と捉えたほうがよいものが多いように思われるが、稿者はそれらを分析する手立てをもたないので、本稿においては精密な議論を避けることにして、一般的な傾向ということで論を進める。

2 量詞「名」に関して

四川大地震報道において、もう一つ目に付くのは量詞「名」の多さである。「名」は④のように名詞句を前置させることや(注4)単独で使用されることもあるのはまれで、ほとんどが⑤のような名詞句後置の表現形である。

④ 国务院新闻办5月18日新闻发布会消息 ……(中略) ……军队已经从废墟中挖掘被埋人员21566名、救治受伤人员34051名、转移安置受灾群众和游客205371名、……(以下略) ……(雑誌「三联生活周刊」2008年第18期(480)、6頁)

⑤ 成都军区800名军人抵达绵竹展开救援 新华网四川绵竹5月13日电(记者苑

坚、刘海、叶建平) 13日清晨5时40分, 成都军区两支救援部队的800多名子弟兵抵达灾情严重的绵竹市, 随后分赴灾区各乡镇展开救援工作。……(以下略)
…… (新浪網13日08:05)

郭(1987)は「名」について人数を数える名詞に搭配していないため、人を数える量詞と見ていない。量詞「名」については「人を計量する。常にある種の身分や職業のある人を指し、抽象的な「人」は指さない」(拙訳・注5)ものとするからである。しかし、名詞句後置が「名」の基本的な表現形であるならば、必然的にそのようにならざるを得ないものであると説明できるものではなかろうか。

日本語における「名」について、『日本国語大辞典(第二版)』は単に「人を数えるのに用いる」ものとし、初出を二葉亭四迷の『浮雲』としている。中国では莊子に例があるが、比較的新しい時代に中国白話文などから入ってきたものと考えられる。

余談であるが、この「名」と同じような用法は、<数+「人」>にも見られ、「214人组成的山西省救援队」「180人的医疗队」(いずれも『人民日報』5月15日12版)のように「的」を用いて、数+「人」+動詞句+「的」(+名詞句)または数+「人」+「的」(+名詞句)の形式で便宜的な名詞句後置の形をつくることもあり、新聞等ではよく見かける表現形式である。

3 同じ人員に「人」と「名」とが共起する記事

- ⑥【现场连线】绵竹什邡受灾重 部队没时间吃饭休息 本网特派记者李刚德阳现场报道：现在是14日上午11时, 我刚刚从北川赶到这里, 我身边是空降兵某部政治部主任竹中强, 下面由竹主任介绍最新情况。竹中强：我们所处的位置是什邡, 我们已经抢救出2000多名群众, 还有5000余人被埋, 昨夜的雨现在停了, 多云。成都军区划分的四大任务区, 我们是第三任务区什邡、德阳片区, 共有空降兵6000人, 加上成都军区部队, 民兵预备役共1万多人。在8个以上的不同点位抢险救灾。……(以下略)…… (新華網14日11:02:54)

⑥の用例から、単独の人数表現や名詞句前置のものは「人」、名詞句後置のものは「名」という文法上の使い分け(相補的な関係のようなもの)がなされているのではないかという推測ができよう。そこで、同じ対象の人数に「人」等と「名」とが共起する例がないかを探してみると、見出しと本文とで表現の異なる例がいくつも見られる。

- ⑦【快讯】500人进入茂县重灾区 某军军长直升机降落 新华网快讯：14日9时20分, 成都军区某红军师500名官兵进入重灾区茂县, ……(以下略)
(新華網14日09:56:45)
- ⑧【快讯】空军25架运送6855名救灾人员紧急奔赴灾区 新华网武汉5月13日电(记者 孙茂庆) 23点15分, ……(中略)……, 先后向成都、绵阳、双流等6个机场累计运送空降部队及医疗小分队6855人, ……(以下略)
(新華網13日23:54:23)

- ⑨ [快讯] 武警部队10名疾病应急防控专家抵达灾区 本网前方记者吴杰发回报
道：新华网快讯：武警总部向四川灾区派出的由武警部队疾病预防控制中心主任李增
德带队的10人医护专家疾病应急防控组，已到达灾区并开始工作

(新華網14日10:15:56)

⑦は見出しに単独の<数+「人」>が、本文に名詞句後置の「名」が使用されている例であり、⑧⑨は逆に見出しに名詞句後置の「名」が、本文に名詞句前置(ただし⑨は～的を用いた構文になっている(注6))の<数+「人」>が使用された例である。

以上から名詞句後置の「名」と<数+「人」>の人数表現は、他の表現形式があるため厳密ではないが、その出現状況において、交替が可能な相補的な関係をなしているということができるとはなからうか。

4 「個(個・箇)」「位」およびその他の量詞に関して

日本語において、人数を表す「個」は「古くは人を「個」「体」「頭」でも数えました」(飯田(2004, 209頁))としているが、『日本国語大辞典(第2版)』では、「集団に対するひとり。また、全体の中のひとつ、個人」としてあるから、限定された表現とみるべきであろう。なお、同辞典では初出に田山花袋を挙げているが、三保(2000)は永代節に用例があることを報告している(382頁)。

一方中国語古典文においては、先秦時から「个・個・箇・介」の漢字で登場し、秦漢時には物類・動物とともに人数を計量するようになったといわれ、人を計量する例が『礼記』『書』『国語』などに見出されるとされる(何(2008)148～9頁(注7))。中古中国語においては、例えば敦煌文書などの人数表現には量詞「口」「箇」が使用される(洪(2004)285頁)が、同時期の日本の木簡資料において人を表す助数詞は「人」「口」「坐」「柱」であって(三保(2004)74頁)「個」には人数を表す表現は見当たらない(同251～2頁)。

中国現代報道文においては、量詞「个」は次の⑩⑪のような、ルポルタージュや見聞録といった、緊急性のない記事に多く現れる。また、新聞の論説などでは「每一个人」(すべての人民は……)などのような記述が多い。

- ⑩ 北川中学高一男生的最后字迹：爸爸 妈妈 对不起 新华网四川北川5月20日电(记者朱玉、田雨)。……(省略)……。主教学楼后面的初中楼，也大部分坍塌，初中二年级二班，67个孩子，6个人脱险。已脱险的孩子们后来告诉老师，他们在废墟中互相鼓励，商量出去后要考什么样的学校，说着说着，有的孩子就不再出声了。……(中略)……。此次地震，已在北川中学上初中三年级的任成蓉的女儿，于震后第三天被抬了出来。和她一起离世的，还有她的另外3个同学兼形影不离的玩伴，巧的是，4个孩子都是学校教师子弟。……(以下略)……。(新華網21日08:41:51)

- ⑪ 丈夫舍身为妻挡飞石：老婆，我们到死也不分开 一个普通的男子，本想替妻子挡住地震时飞来的巨石，独自赴难，最后却成就了很多情侣相爱时的这句誓

词。昨天上午，在汶川绵池镇一个灾后处理现场，一名抗震救灾指挥部的工作人员含泪讲述了不久前清理一处灾难现场的情形：在一块大石下，一名中年男子呈弓趴姿势保护着身下的一中年女子，而女子则紧紧地抱住男子，两人的尸体已无法分开，只好一起入殓。……（中略）……。他用身躯替妻挡飞石……（中略）……。在处理事后时，据幸存者说，当时一位女子吓得尖声尖叫，旁边的一名中年男子紧紧地抱着她，自己背朝石头飞来的方向护着女子往前跑。夫妻已永无法分开……（中略）……一男一女紧紧地抱在一起，中年男子仍呈弓趴姿势，试图保护什么……。由于两人尸体已无法分开，后事处理人员在提取有关证据信息后，将他们一起入殓。绵池镇相关人员说，两人都是茂县凤仪镇人，都约三十五六岁，应该有孩子，但还没联系上。据说这是一对名字很普通，长得也很普通的夫妻
（新華網21日08：40：07）

⑩は「67个孩子」のように比較的大きな人数を数えているが、このような用例はまれで、現に同じ記事の中に出てくる量詞「个」を用いた人数表現がすべて一桁である事から、「人」や「名」と異なり、大きな人数を数えるのには不向きであることをものがたっている。「个」の人数表現は⑩の冒頭の用例のように「一个」（日本語には訳しにくい）や「一个人」（本稿ではこの「人」は名詞として扱う）の表現が多い。

なお、⑩の中には「一位女子」のように、「个」と似たような使用をされる量詞「位」が見受けられる。「位」は日本語では順序数詞にしか用いられない助数詞だが、新聞などを調査すると「名」に次ぐ使用量の量詞である。用法も「名」と似て、「個体として、一定の身分を有する人を数える」（郭（1987）85頁・拙訳）とされるが、「名」と異なり、「个」と同様に用いられるか、「个」より少し大きな数を表している。

5 新聞を利用した悉皆調査

ここで、中国の報道文における人数表現の量的な傾向を見るため、中国の新聞2紙（人民日報（北京）・文匯報（上海））の、地震翌日の5月13日から5日間のすべての人数表現を調査した。範囲は四川地震の記事に限らず、また広告等をも含めた。用いた資料は以下のものである。

- ・人民日報：『人民日报 縮印合訂本』（上／下）2008年5月份 人民日报社
- ・文匯報：『文汇报 縮印本』2008年5月份 文匯、新民聯合報業集團

以下の表が、調査結果である。ただし、「人口50万」を名詞句前置・「50万人口」を量詞を伴わない単独の数の表現と名詞との主述関係にするなどといったゆれや、1節末尾に説明したような曖昧さがこの調査にはある。このため、この数値はあくまで一般的な傾向を示したものであり、引用等には適さないものであることをお断りしておく（注4も参照のこと）。

表

資料と用法 量詞など	人民日報			文匯報		
	単独で使用	名詞句前置	名詞句後置	単独で使用	名詞句前置	名詞句後置
「人」	122	99	2	141	87	6
名	5	4	163	6	6	194
个	3	1	47	3	2	69
位	3	0	44	0	0	37
数詞のみ	13	11	16	8	0	14
些輩群など	0	0	0	0	0	7

6 おわりに

日本語では助数詞として疑いもなく認められる〈数+「人」〉という文字連続の人数表現については、古典中国語では量詞であるか否か説が分かれ、また現代中国語ではもっぱら「人」を名詞と捉えるものであるが、〈数+「人」〉の文字連続が現代中国語の報道文において、大きな役割を果たしていることを確認した。

また、〈数+「人」〉の名詞句前置と対応する表現として、量詞「名」による名詞句後置が有力な表現として存在し、かつ〈数+「人」〉と表現が相補的に交替する様相も確認した。また〈数+「人」〉にも「的」を用いた名詞句後置があることを指摘した。

本稿では、2008年5月12日に起きた四川大地震の報道に多く現れた人数表現を取り上げて、古代・近現代日本語における用法を確認しながら観察していったが、中国語においては量詞の搭配からのみの整理に限界があること、日本語においてはものを数える表現がすべて助数詞であるとして好事家的に並べることに対し反省が必要であると考えた。

注

- 1 要は、〈数+「人」〉の表現形に名詞句が後置しないことに対する見解の相違である。
- 2 他の量詞辞典・搭配辞典の類も参照したが同様である。詳しくは省略する。
- 3 ただし実際には、例えば文匯報5月17日3版（中国の新聞における版はページのようなもの）において「8名医疗队」と「8人医疗队」が共起するといったように、「人」が量詞として用いられているとみられるよう例もある。新聞には数こそ少ないが、このような「人」の用法は他にもある。本文の表を参照のこと。
- 4 本稿では、本文でも述べたように、①の「人」の用例や④の「名」のように、数える対象が文字連続として前に置かれているもの（5節の表においては、「已過」などを文字連続の間に挟んだものも含めた）を一律に名詞句前置とした。文構造分析の仕方によっては主述の関係と捉えた方がよいものもあるかと思うが、繰り

返すが本稿の筆者は主述と名詞句前置との明確な線引きをする手立てを持たないので、これらをすべて名詞句前置として取り扱う。

- 5 これは郭（1987）の辞典の部分の「名」①の説明だが、この説明には例句として例文が付されており、その中で「数＋「人」」の表現を共起させている。
- 6 人民日報5月13日10版（四川大地震とは関係のない記事）などにも「～的＋「人」」の表現があるから、そういう表現形式が少数ながら存在する可能性はあるのではないか。
- 7 その後、魏晉南北朝時に植物を、隋唐時に詩歌や時間や抽象事物の計量に用法を拡大させたとする。

参考文献

- 飯田朝子（2004）『数え方の辞典』小学館
- 三保忠夫（2000）『日本語助数詞の歴史的研究 近世書札を中心に』風間書房
- （2004）『木簡と正倉院文書における助数詞の研究』風間書房
- 室井 努（1997）「古代の人数の表現について——「一ノヒト」の表現を中心に」（加藤正信編『日本語の歴史地理構造』明治書院）
- （2006）「今昔物語集の人数表現——数量詞転移の文大差と用法および数量詞遊離構文について」『日本語の研究』2－1（『国語学』224）

郭 先珍（1987）『現代汉语量词手册』中国和平出版社

何 杰（2008）『現代汉语量词研究（增编版）』北京语言大学出版社

洪 藝芳（2004）『敦煌社會經濟文書中之量詞研究』（台湾）文津出版

付記：2008年5月ごろより、原田病と思われる免疫障害その他の複合的な原因によって、近視であった目が極端に遠視化し、視力が安定化せず近くのものが見えなくなりました。このため、新聞縮刷版の調査などが遅延をしたため、本来であれば人民日報・文匯報の他に光明日報などについて、3紙で2週間分程度を調査するつもりでありましたが、時間的にできませんでした。またそれに伴い原稿提出が遅れ、国語国文学会事務局にも御迷惑をおかけいたしました。なお、川口市の牛丸英寛氏には、四川大地震に関する中国国内の雑誌の提供を受けましたので、お礼申し上げます。最後に、上田先生の御退任をお祝い申し上げます。